

「横浜の中心で奏でよう！大鳥和太鼓2022」

第6学年2組 指導者 玉虫 麻衣子

1 単元構想図

<p>子どもの思いや願い</p> <p>最高学年になって2か月が経った子ども達。BSF（運動会）に向けた活動の中で、最高学年としての自覚が少しずつ芽生えてきた。そして、自分たちで学校をつくっていくんだ、という思いにより、気付き始めた様子が見られる。BBE（行事での演奏グループ）への参加者も多く、音楽に関心を持っている子どもたちも少なくない。小学校最後の「はばたき」（総合的な学習の時間）への期待も大きい。今年度はわくわくワールド（12月の学習発表会）に向けてだけでなく、1年間を通じたダイナミックな活動に取り組みたいと子ども達は考えている。クラスの仲間たちと協力して、1つの物をつくり上げていくことの楽しさと達成感を味わえるような活動にしていきたいと考えている。コロナ禍で少なくなってしまったまちのかかわりをもう一度見つめ直し、自分たちがまちをより良くしていきたい、という思いを実現したい。</p>	<p>学習材（和太鼓）の価値</p> <p>「和太鼓」は縄文時代から続く日本の伝統文化の一つである。社会科で用いる様々な歴史の資料からも、太鼓の存在が人々の生活とともにあったことが読み取れる。現在でも世界的なイベントなどでも用いられていることから、海外からも和太鼓が日本の文化を象徴するものの一つであると捉えられるだろう。西洋音楽と違い、指揮者はいない。演奏者が息を合わせることによって、リズムがそろう。音の響きは耳で聴く音だけでなく、鼓動も体に響き渡り、心地よい。演奏者同士が入り替わったり、たたき方を工夫したりすることにより、見ても楽しめる演奏となる。和太鼓の種類も小ぶりの縮太鼓、大きな宮太鼓、肩にかけて担いで動きながら演奏できる桶太鼓まで、様々な種類があり、演奏方法も幅広く考えられる。横浜出身のKさんは、和太鼓を日本の文化としてより多くの人たちに広めていくために、国内外で熱心に活動に取り組まれている。Kさんから演奏の仕方を学び、活動として実現されているその熱い思いにふれ、自分たちのまち・中區で和太鼓を奏でる活動に取り組むことを通して、日本の伝統文化のよさを体感し、自分たちの思いを実現することのよさを感じられると考える。また、演奏場所を交渉するために横浜市の職員と関わることで、まちを支えている人の存在に気づいたり、自分たちで作曲したり、チームを組んで練習に取り組んだりして曲を完成させていくことを通して、正解を追い求めるのではなく、自分たちで「納得解」を見出す力が高まる活動になると考える。</p>
---	--

<p>地域の特徴</p> <p>横浜市中区は横浜の中心地であり、今は少なくなりましたが、今後も海外からの観光客が多く訪れる地域である。また、本牧のまちには日本吹奏楽発祥の地があり、音楽の歴史もある。開港当初から海外からの居住者の多いエリアや中華街など、多文化が共生する地域である。このまちで、音楽を通して様々な人たちとつながれると実感できると考える。</p>	<p>探究課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「和太鼓」を通じた日本の伝統文化の魅力とそれを広めるKさんの思い ・横浜市中区のまちの魅力とまちを支える人たちの思い 	<p>他教科等との関連</p> <p>国語「今、わたしは、ほくは」 社会「和太鼓から歴史を見て」 道徳「支えてくれるその思いに感謝し、こたえよう」 音楽「音楽づくり」 特別活動「学級目標」 行事「わくわくワールド」 「はばたきますの会」</p>
--	---	---

<p>単元目標</p> <p>自分たちのまち・横浜市中區で和太鼓を演奏する活動を通して、和太鼓の魅力やプロのKさんの和太鼓に対する思いにふれたり、あらためてまちを見つめ直すことでまちのために自分たちができることを取り組むことのよさに気付いたりすることで、自分たちがまちをつくっていく一員であることへの誇りをもつことができる。</p>

育てたい子どもの資質・能力		
<p><知識及び技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ○和太鼓の歴史やその魅力に気付くことができる。 ○和太鼓をより多くの人たちに広めている和太鼓奏者・Kさんの考え方や思いを理解することができる。 ○まちとのかかわりの中で、自分たちの待ちを支えてくれている人の存在に気付く。 ○自分たちがまちをつくっていく一員であることに気付くことができる。 	<p><思考力・判断力・表現力等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○和太鼓に触れ、その魅力に触れたり、演奏活動したりすることを通して、中區のまちの人たちと関わるための活動の見通しをもつ。 ○和太鼓の演奏曲に込める思いを明確にするために、まちに関する情報を収集したり、自分たちが表現したいことを考え合い、明確にしたりする。 ○自分たちの表したいことを演奏曲や演奏方法に表すことができる。 	<p><学びに向かう力・人間性等></p> <ul style="list-style-type: none"> ○和太鼓の演奏活動を通して日本の伝統文化の魅力を見つめ直すことができる。 ○演奏曲に学校やまちへの思いを表現していく中で、自分たちを支えてくれている人の存在に気づき、感謝の気持ちをもつことができる。 ○まちをつくる一員として、社会をよりよくするために自分たちにできることに取り組み続けようとする。

横浜の中心で奏でよう！大鳥和太鼓2022

学習課題（時数）

学習活動

期待する変容

他教科等関連

総合70h 国語6h 社会4h 音楽6h 道徳1h 特活3h

立ち上げたばかりの頃の計画のため、変更あり

I 今年度のはばたきの活動を決めよう（3）

- これまでの**はばたき**の学習をふり返り、今年度自分たちが身に付けたい力と**はばたき**で取り組みたい活動を考える
- Kさんたちの演奏を聴き、自分たちが今年取り組みたい活動**を考える

- ・小学校最後のはばたきでは、大鳥小学校の6年生として、まちのためにできることに取り組みたいな。
- ・クラスの仲間と力を合わせて、すごいことができるといいな！
- ・横浜で和太鼓を演奏していたKさんたちの演奏を聴いて、とても感動した！自分たちも日本の伝統文化である和太鼓をまちで演奏して、元気と感動を与えられるような活動にしていきたいな！

「クラスで目指す目標を決めよう」（特活）
1年間、クラスで目指す姿について共有することで、自分たちの良さや課題に気づき、はばたきで目指す姿をより具体的に考えられるようにする。

◇指導のポイント◇
子どもたち自身が身に付けたい力を学校教育目標に照らし合わせてじっくり考えることで、1年間のめあてを意識できるようにする。

II 大鳥小で和太鼓を演奏しよう（20）+休み時間の活動

- 和太鼓にふれて、**和太鼓の面白さを実感する**
- Kさんたちの演奏の映像を見ながら、自分たちがどのような演奏をしたいか**を考える
- 学校で1回目の演奏活動を行う
- 活動を振り返り、今後の願望もつ

- ・和太鼓って音を出すと、体に響いてくるし、たたくととても気持ちがいいな。みんなで演奏するのが楽しみになってきた！
- ・学校で演奏するなら、みんなが知っている曲を演奏してみたいな。校歌に合わせてたたいてみたらどうかな。
- ・休み時間の演奏会で、たくさんの人たちが聴きにきてくれたよ。みんながもっと参加してもらえるような演奏を次はしてみたいな。
- ・自分たちでリズムを作って、オリジナルな曲を演奏してみたいな。

「伝統文化を伝えよう」（国語）7h
和太鼓の魅力が伝わるようなリーフレットを作成するために、和太鼓について調べたり、分かりやすい資料や伝わりやすい言葉を選び工夫して書き表すことができるようにする。

◇指導のポイント◇
第1回目の演奏活動は学校内で行うことにより、身近な人たちの反応に気づきやすいだろう。タブレットを活用したアンケート実施など、手ごたえをつかみやすくなるような活動の振り返りを行う。また、運営面でも今後どのような準備が必要かが分かりやすくなるようにする。

III 中区のまちでオリジナルな曲を演奏しよう（30）+休み時間の活動

- 自分たちが**表したいことを明確にして、オリジナル曲**を作る
- 演奏の場を考える（地域の場所のどこか）
- 演奏の実現のために必要な準備（**曲の練習**、場所の許可、曲目、チラシ・ポスターの宣伝、衣装等）を考えて取り組む
- まちでの演奏活動を行う（1～2回）
- わくわくワールド（学習発表会）での演奏活動を行う
- 活動を振り返り、今後の願望もつ

- ・様々な人たちに協力してもらうことで、やっとまちの演奏活動を実現することができたね。まちには自分たちを支えてくれる人がいるんだね。
- ・演奏でうまくいかないこともあったけれど、みんなで考え合って、力を合わせて取り組むことで、乗り越えることができたね。

「音楽づくり」（音楽）2h
和太鼓や篠笛（リコーダー）を使ってグループで簡単な音楽をつくり、はばたきの時間で曲を作るための基本フレーズを作れるようにする。

「伝統文化を伝えよう」（国語）8h
宣伝用に配布するチラシや、参加者に配布するパンフレットを絵図を用いて作成。

◇指導のポイント◇ 曲に表したいことを考えることを通して、自分軸だけでなく、自分とは違う立場の人たちの思いを考えられるようにする。演奏活動を重ねる中で、自分たちの気づきを次に生かすことで、自分たちが目指したい姿を自ら設定し、それに向けて協力して取り組むよさに気付けるようにする。

IV 中区のまちの人たちと和太鼓を奏でよう（17）+休み時間の活動

- 身近な人に**感謝の気持ち**を伝えるための曲を作曲する
- これまでの学びを振り返り、「**はばたきますの会**」で演奏する
- 1年間の活動を振り返る





- ・自分たちの活動を支えてくれた人、これまでの自分たちの成長を支えてくれた人たちに感謝の気持ちを伝えられたね。受け継いでいくってことは・・・？

◇指導のポイント◇
これまでの様々な活動を振り返り、自分たちの活動を1年間支えてくださった方々に感謝の気持ちを持てるようにしたい。そして、まちとのつながりを通して自分たちが住むこのまちを大切にしていこうという思いを高められるように、まちでの思い出を育んでいく。

① 学習指導案 別途添付

② 事業実施報告書詳細（70時間の活動のうち、特に関連する部分を抜粋）

学校名 横浜市立大鳥小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
2	教室	本牧の町のイメージを曲に表すために、街歩きしながら見つける活動の見通しを持つ		自分たちの思い出に残っている場所をめぐりたい、という思いをもっていた。そこで、学校に加え主に山頂公園とガス山公園を候補にして回ることにした。
4	山頂公園	山頂公園で自然と触れ合いながら、写真をおさめたり、キーワードをまとめたりする。		のびのびと活動しながら、小さい頃の様子を口々にしていた。
4	ガス山公園	ガス山公園で活動したり、利用する人たちの様子を見学したりしながら、写真やキーワードにまとめる。		キーワードにまとめることは難しかったが、本牧のまちのイメージをまとめていた。
4	体育館	グループごとに分かれてまちのイメージをもとにした音を組み合わせ、グループオリジナルの楽曲を作成する。	 	実際に和太鼓でたたいたり、グループで話し合ったりしながら、作りたい楽曲のイメージを音の組み合わせで表すことができた。

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>まちのイメージを和太鼓の楽曲に活かす、という点では、プロの方に相談し、子ども達が一から音に表すことが難しいと判断し、キーワードや写真をもとに、プロの方にいくつかリズムの方を作っていただき、それを組み合わせることで子ども達が楽曲を作成していく形にした。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>まちのイメージを音にすることの難しさ、子どもたちの作りたい楽曲のイメージと待ちのイメージの関連のさせ方。</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <p>子どもたちは、自分たちの慣れ親しんだ街を、イメージとしてキーワードにまとめたり写真にまとめたりするために新たな視点で見直していくことで、自分たちのまちをみつめなおしていた。活動の中で、口々に「ここではこんなことして遊んだなあ」「こんなことがあったね」と話しており、活動を通してまちを見つめている様子だった。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>まちとの関わりをさらに深めるために、最後は横浜市の名所でもある「三溪園」で和太鼓を発表することができた。自分たちの学校の近くにある名所も、訪れたことのない子どもも多く、まちを見渡していくとさらに自分たちのまちには魅力があるということに気付けたと思う。今回は総合で行ったが、他学年の場合であれば、3年生のまち探検から活動を広げてまちの魅力を発見するようなプログラムも実施してみたいと思った。和太鼓をプロの方に教わり、校内外で発表する活動ができるということを多くの方に知っていただける機会となり、周りの職員や子どもたちも、総合への関心がさらに高まっていったと感じている。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <p>学習を進めていく過程で、当初の活動と変更になることがある。その場合の関連付けが難しいなと感じたが、助成していただくことで活動により広がりが見られるので、今後もまちとの関連を図りながら様々な活動の中で活用していきたい。</p>